

環境学研究科

教育カリキュラムの概要

環境学研究科 教務委員会

2026年5月



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

Graduate School of Environmental Studies

Curriculum Outline (May 2026) by Academic affairs committee

アウトライン

Outline

- ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)
- カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)
- 授業科目の区分
- 取得可能な学位と要件
- 英語科目
- 環境学研究科の教育の特長

ディプロマ・ポリシー【博士前期課程】

Diploma Policy (Master's Program)

環境学研究科博士前期課程は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、修了を認定し、学位を授与します。

- ・ 環境学の基礎に裏打ちされた思考力で環境問題に果敢に取り組む
- ・ 自らの専門領域に閉じない柔軟な英知を備える
- ・ 文理にまたがる幅広い学問分野を自由に咀嚼する能力を備える
- ・ 人類社会の中での自らの役割を見出すことができ、国際的に活躍することができる

特に、各専攻では、上記に加え、以下の能力を持った人材を育成します。

【地球環境科学専攻】 確かな基礎の習得に裏打ちされた、地球の環境に関する科学的知見を活かして、社会に貢献できる能力を備えた人材。

【都市環境学専攻】 人間活動の場である建築、都市あるいは地域における人工環境と自然環境・人間環境の新たな関係を自ら創出する能力を備えた人材。

【社会環境学専攻】 価値規範の妥当性と科学的客観性を備えた政策評価・提言に資する能力、あるいは国内外の社会環境政策に関わる様々な分野の要求に応えることのできる能力を備えた人材。

ディプロマ・ポリシー【博士後期課程】

Diploma Policy (Doctor's Program)

環境学研究科博士後期課程は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、修了を認定し、学位を授与します。

- ・ 環境学の基礎に裏打ちされた思考力で環境問題に果敢に取り組む
 - ・ 自らの専門領域に閉じない柔軟な英知を備える
 - ・ 文理にまたがる幅広い学問分野を自由に咀嚼する能力を備え、次世代の新しい学術分野を創造する
 - ・ 人類社会の中での自らの役割を見出すことができ、研究者や社会で活躍するリーダーとして国際的に活躍することができる
 - ・ リカレント教育においては、社会人経験を踏まえて、社会が抱える問題の解決に取り組む
- 特に、各専攻においては、上記に加え、以下の能力を持った人材を育成します。

【地球環境科学専攻】 地球の環境に関する科学的知見を深化させる取り組みを通して、社会に貢献できる能力を備えた人材。

【都市環境学専攻】 人間活動の場である建築、都市あるいは地域における人工環境と自然環境・人間環境の新たな関係を自ら創出し、学術的に理論化する能力を備えた人材。

【社会環境学専攻】 より高度な専門的見地より、価値規範の妥当性と科学的客観性を備えた政策評価・提言に資する能力、あるいは国内外の社会環境政策に関わる様々な分野の要求に応えることのできる能力を備えた人材。

カリキュラムポリシー

Curriculum policy

(1) 分野横断型授業－**横型**

Cross-disciplinary courses

縦横の組合せ

多面的な見方・俯瞰力

(2) 専門特化型授業－**縦型 (従来型)**

Deepening understanding in one's specific area

通常の講義の他,

－**演習型・対話型** 授業

Seminars, Interactive subjects

－**プロジェクト対応** 授業

Project-related subjects

－**現場参加型** 授業

On-site subjects

個別の環境問題への取り組み

行政・NGO・NPO等との協力

授業科目の区分（前期課程）

Types of subjects (Master's Course)

研究科共通 Common subjects

体系理解科目 Interdisciplinary subjects

分野横断型 Cross-disciplinary

他専攻向け Lectures for other-dept. students

現場, オンサイト型 Field seminar etc.

分野科目（各専攻） Specialized subjects (Each department)

I 類: 講義 (Type 1: Lectures)

II 類: セミナー (Type 2: Seminars) ※研究指導の一部

III 類: 演習・実習 (Type 3: Practical exercises/Workshops)

研究科外の科目 Subjects at Other Graduate Schools

体系理解科目の一例 「環境学フィールドセミナー」 e.g. “Environmental studies field seminar” (Interdisciplinary subject)

田原の風力発電
Wind power generation at Tahara



六条干潟
Rokujyo tideland

取得可能な学位と要件

Academic Degrees Offered at GSES and Their Requirements

地球環境科学専攻 Dept. of Earth and Env. Sciences

環境学 (Environmental Studies),
理学 (Science)

都市環境学専攻 Dept. of Env. Engineering and Architecture

環境学 (Environmental Studies),
工学 (Engineering), 建築学 (Architecture)

社会環境学専攻 Dept. of Social and Human Environment

環境学 (Environmental Studies),
法学 (Laws), 経済学 (Economics), 社会学 (Sociology),
地理学 (Geography)

取得可能な学位と要件

Academic Degrees Offered at GSES and Their Requirements

博士前期課程（**修士**） Master's course

- **30 単位**以上 (A minimum of 30 credits)
- 研究指導 (Research supervision)
- 修士学位論文 (Master's thesis)

博士後期課程（**博士**） Doctor's course

- **8 単位**以上 (A minimum of 8 credits)
- 研究指導 (Research supervision)
- 博士学位論文・学位試験 (Doctor's thesis, examination)

英語科目（英語開講科目・英語対応科目の例）

Lectures/Seminars in English (only; in Japanese with English)

- Sustainability and Environmental Studies（持続可能性と環境学）
- Sustainable City Studies（サステナブル都市学）
- Environmental Urban Systems（環境都市システム論）
- English Communication in Environ. Issues（環境コミュニケーション）
- Environmental Industry Systems（環境産業システム論）
- Climate Change and Infrastructure（気候変動と社会基盤）
- Environmental Politics（環境政治）

- Earth and Planetary Physics 1, 2（地球惑星物理学特論1, 2）
- Dynamic Meteorology（大気物理学）
- Building Construction Engineering（建築生産設計工学）
- Environmental Economics（環境経済学）
- Social Geography（社会地理学）

環境学研究科の教育の特長

Key Features of Education at GSES

- 縦（専門）・横（分野横断）の組合せ
- 環境学＋その土台となる多様な学位
- 環境関連英語授業の充実